

英語教育21世紀叢書
英語教師のための
コンピュータ活用法

濱岡美郎 著

四六判 240pp.
本体1,800円＋税

亀山太一



コンピュータ好きの英語教師には垂涎の書

英語教師のみならず、教育現場におけるコンピュータの利用は好むと好まざるとにかかわらず必須となっている。もちろん、コンピュータを使うことの利点を挙げればきりが無いが、一方では、コンピュータに「使われて」いるという感覚を持つ教師も少なくない。簡単な書類を作るのに、なまじコンピュータを使っただけに余計な時間を取られてイライラしたという経験は、多くの人が持っているのではないだろうか。

とはいえ、コンピュータを利用することで作業時間が大幅に短縮できたり、コンピュータなくしては実現不可能な画期的な教材作りや授業形態が可能になったりすることも事実である。要は、コンピュータという「道具」の特性とその可能性を熟知して、それを使いこなすことが、コンピュータに「使われ」ないようになるための第一歩なのである。

本書は、コンピュータを利用した授業の know-how や、教材作りの how-to を求める人に向けて書かれたものではなく、「コンピュータで何ができるか」を網羅的かつコンパクトにまとめたものである。ビジネスソフトの定番であるワード、エクセルをはじめ、テキストエディタ、デジタル辞書、OCR、OMR、ホームページ作成、音声・画像データの編集、LMS (Moodle)、メール、オンラインストレージ、データベース、機械翻訳、テキスト処理、文献検索、コーパス、統計処理、アウトラインプロセッシング、ブログ、TeX、パワーポイント、BASIC プログラミング…と、実に幅広く「コンピュータの使い道」を紹介している。それぞれの項目の解説も、スクリーンショットを多用して、実際の使い方がイメージしやすくなっ

ている。

本書は、コンピュータが好きな人、あるいはコンピュータの知識を深めたいと思っている人には、非常に興味深く読める本である。ただ、本書はいわゆる入門書のたぐいではないので、コンピュータの初心者にとっては、理解しがたい、あるいは不要な情報（ように見える部分）があることは否めない。たとえば、本誌の主な読者である中高の英語教師にとっては、Moodle のインストールやサーバー管理、あるいはアクセスや MySQL といったデータベースを扱う機会ほとんどないのではないだろうか。また、本書の後半で解説されている SPSS や TeX、さらには sed や AWK といった、かなり限定された利用法についても、(個人的には興味深いのだが) やはり多くの英語教師にとっては「雲をつかむような話」になっている可能性が高い。むしろ、ワード、エクセルやエディタなどの一般的なソフトウェアを使って同様の処理をする方法を紹介してもらえるとありがたかったと思う。

ただ、著者も述べているように、本書は、これを読んで興味を持った活用法についてはマニュアルなどを参考にして自分で取り組むという前提で書かれているので、上のような批判は当たらないかもしれない。しかし、えてしてコンピュータ関係のマニュアルというのは、本書以上に難解なものが多いので、できれば本書の内容を吟味した上で、初心者向けに必要な情報を提供するような「続編」が望まれるところである。

本書は、「英語教育におけるコンピュータの活用」をテーマにした本としては、見た目のボリューム以上に豊富な情報を提供してくれるものであるが、読者にもそれなりの基礎知識が求められる。とはいえ、本書の著者自身も英語教師であり、コンピュータの専門家ではない。にもかかわらずこのような本が書けるという事実は、コンピュータに「使われて」いる英語教師にとっては福音であろう。すなわち本書は、「普通の英語教師」でもこれだけコンピュータに習熟することが可能であることを示唆するものであり、コンピュータを敬遠している英語教師にとっては、「コンピュータを道具として使いこなす英語教師」の、1つのモデルを示していると言える。

(かめやま たいち・岐阜工業高等専門学校教授)